

# よきもの わかもの ばかもの

〜松江駅長奮闘記

<2>

根っからの大都會育ちのわが家にとって、当地の生活に不便がないと言っては嘘になる。しかし、その不便さをつかり忘れてしまうほどの別の豊かさが、松江にはある。

都会では、平日は「少し詰め」状態の電車に何十分も揺られての通勤地獄。その上に週末も、家族で買い物や行楽に行くにも行列や渋滞で神経をすり減らすばかりだ。

都会では、平日は「少し詰め」状態の電車に何十分も揺られての通勤地獄。その上に週末も、家族で買い物や行楽に行くにも行列や渋滞で神経をすり減らすばかりだ。

一方、松江では通勤も、らくちん。週末は銭湯代わりに温泉に出かけ、道の駅で食材を買って帰り、天気の良い日は自宅の庭で宍道湖の夕日を眺



水揚げされたノドグロを品定めする仲買人。山陰には豊かな「食」がある。8月18日、浜田市原井町、浜田水産物地方卸売市場

## 「享受」いつまで続くのか

降りた神戸牛に慣れてきた私でも、島根和牛の質は格別にいいと感じる。

「おい、グラム498で出てるぞ！」と思わず声を上げると、家内は「大きな声出さないで！」と恥ずかしがる。

他にも大山ルビー豚や、近所で精米して釜で食べる島根のお米、種類豊富なお酒。地元産の野菜も新鮮そのもので、甘さや食感が違う。当地の「うまいもの」は、名

物「出雲そば」に限らなというのに、どうして駅の待合室ではお年寄りばかり目立つのか。観光客からは「観光地なのに、

が生活の中で感じられる「豊かさ」そのものではないかと思う。6歳の娘は、毎日の通園で自然と身についたのだから、静かに暮らしているだけで豊かさを当たり前に享受できる状態は、いつでも持続できるのだろうか。

近所の人に助けてもらえらるだろうという安心感が、この地にはある。しかし、島根県の合計特殊出生率は全国2位だ

## 豊かさとの向き合い方

特殊出生率は全国2位だ

長・内山興  
第2、4金曜掲載

